Nakatsu Educational Office
NEO REPORT
令和６年７月２６日
【中津教育事務所通信】

豊陽中学校の
実践から学ぶ

組織的な授業改善の実践例　～自分ごと研修の充実～

なるほど！事後研で一人ひとりが当事者になる工夫

中学校学力向上対策「３つの提言」推進拠点校として、組織的な授業改善に取組む中津市立豊陽中学校では、先生方が授業について語り合う場が多くあります。みんなで、実践しているからこそ深まる協議。研究主任の先生は、「一人でやらない」「特別なことはしない」「これまでの取組を少しアレンジして、流れを良くする」と、当たり前の質を高めることを意識しているようです。

研究主題

- ○ **教科の壁を超えたものへ**
- ○ **一人ひとりが共通実践しやすいものへ**
- ○ 実践と照らし合わせる「**検証の場**」**を設定**

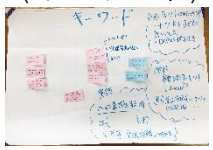
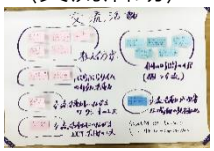
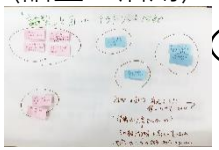
教育目標：つながりを大切にし、気づき・考え・実行する生徒の育成
研究テーマ：**言葉を大切にして、仲間・学習とつながる授業作り**
取組の重点：「**キーワード**」「**交流活動**」「**話型**を用いたアウトプット活動」
※R5~継続中　※R5~継続中　※R6~新たに設定

日常的な実践（自分ごと研究）の積み重ね

・研究授業は、共通実践の検証の場。
・取組が成果につながっているのかを確認。
・授業改善に繋げる（自分ごと研究）。

校内研は視点ごとにグルーピング

〈キーワード〉〈交流活動〉〈話型の活用〉

・教科部と指導主事による事後研の裏で研究主任を中心に事後研を進める。
・３つの視点で授業を分析し、成果と課題をあぶり出す。

協議・共有

・ファシリテータは、発せられた意見をまとめる。
・適宜質問等を行い深掘りする。
・より良い協議へと導く。

明日から取組む共通実践を切り出す

ペアやグループ活動へ移る前に、生徒が自分の考えを持つ時間を十分に確保する。

・目的は、授業の良し悪しを評価することではない。
・明日から全員が取組める共通実践を切り抜くこと。